

教育現場における管弦楽曲の編曲

— 威風堂々第1番作品39-1 (E.エルガー作曲) を用いて —

To transcribe Orchestral Works in Education.
— Subject to “Pomp and Circumstance March No.1 opus 39-1 (Composed by Edward William Elgar)” —

木 許 隆
(こども学科 准教授)

要旨 教育現場において、「楽譜がない」「技術的に演奏できない」という言葉を耳にする。なぜ、それらの楽譜に手を加え「演奏できる曲」に変えていかないのかは疑問に感じる点である。本稿では、教育現場で使用される「名曲」を演奏するにはどのような編曲が必要であるかを考え、実際に編曲した楽譜を掲載した。この編曲をとおして、多くの子どもたちが「音楽」に対する苦手意識を払拭し、音楽することの楽しさを知ってもらえたらと考える。

【キーワード：音楽 管弦楽 編曲】

はじめに

音楽の中には、「名曲」と言われる楽曲が多数、存在している。そして、教育現場では、情操教育とされる「音楽」を学ぶ子どもたちに、それらの「名曲」を提示し、音楽に親しむ心を育てようとしている。また、音楽教育をとおして、子どもたちの感受性をも高めようとしている。しかし、子どもたちが、感動し好感をもった楽曲を演奏しようにも、子どもたちが演奏できる楽器や編成に合わせた楽譜が無いというのが現状である。このようなことから、音楽を演奏しようとする場合、既存の楽譜を使用して演奏できることは稀であると言わざるをえない。これでは、音楽のもつ素晴らしさを伝えることができなくなっていくのではないかと懸念される。教育現場には、自主的に音楽を楽しむ課外活動がある。合唱、器楽など様々な活動があるが、本稿では、代表的な吹奏楽に対する編曲について研究する。

I 研究概要

吹奏楽は、もともと、“band”と表されていたが、ロックバンドやジャズバンドが一般化し、“military band”や“brass band”という名称で区別されてきた。そして、“brass band”は、金管楽器のみで編成されたバンドをさすことも多いことなどから、近年では、“concert band”, “wind band”, “wind orchestra”, “symphonic band”という名称で親しまれている。また、吹奏楽では、吹奏楽用に作曲

された曲（オリジナル：original）、管弦楽曲などを吹奏楽用に編曲した曲（トランスクリプション：transcription）、独創性をもち編曲された曲（アレンジメント：arrangement）といわれる3種類の楽譜が使用される。吹奏楽用に作曲された曲を演奏する場合にも、演奏団体の人数や編成、楽器所有の状況によって若干、楽譜の修正が必要とされるものであるが、ここでは、管弦楽曲をいかに編曲し表現するかに焦点をあてる。

II 研究内容

1 歴史的背景

吹奏楽の歴史は、古代エジプトのヒエログリフ（hieroglyph：聖刻文字・神聖文字）にまでさかのぼるといわれている。そこには、直管のラッパや太鼓をもち、行進する情景が壁画として残されている。そして、古代ローマ、中世と時代を経て軍楽隊の基礎をつくり、大編成になっていく。また、オスマン帝国の侵攻によってトルコ軍楽隊とめぐりあったことは、西ヨーロッパの吹奏楽を大きく発展させ、楽器の機能や奏者の技術も向上させたといわれている。さらに、17世紀頃になると、行進曲のオリジナルが作曲されるようになり、18世紀頃になると、現代の吹奏楽で使用される編成とほぼ変わらない楽器編成になっている。楽器の機能が発達すれば、より複雑な演奏が可能となるため、多くの作曲家が、管楽器や打楽器を使用した楽曲を作曲しはじめたのもこの頃である。

吹奏楽は、管弦楽と違った演奏スタイルとしてひとつの地位を築いてきた。しかし、ヨーロッパ全域において、吹奏楽は一般的に取りあげられず、軍楽隊にのみその伝統が継承されている。それに対しアメリカでは、新しい音楽文化を作るべく、吹奏楽を積極的に取りあげ、学校教育や社会教育に活用されてきた。

日本における吹奏楽の歴史は、1896年、薩摩藩が藩士たちを選抜して、J.W. フェントン (John William Fenton 1831-1890) の指導のもと「薩摩バンド (薩摩藩軍楽隊)」を結成したことに始まる。そして、そのメンバーは、廃藩置県にもない創設された陸軍および海軍軍楽隊の中核となって演奏し指導にあたった。大正時代には、音楽学校の授業でも吹奏楽が取り入れられ、百貨店や遊園地に音楽隊が組織されていった。また、それらは広く一般市民の中にも音楽活動が広がっていく先駆けとなった。

昭和時代に入り、各地で吹奏楽コンクールや演奏会も行われるようになった。これは、青少年教育に音楽が最適であると考えられていたことや、第2次世界大戦後の学校音楽教育が、唱歌を中心とした教育から器楽を中心とした教育に移り変わったことにも由来していると言えるであろう。そして、1961年、ギャルド・レピュブリケーヌ吹奏楽団 (Orchestre de la Garde Républicaine) がフランスより来日し演奏会を開催することになった。このことは、演奏曲目はもちろんのこと素晴らしいサウンドに、聴衆や吹奏楽関係者が大きな影響を受けたと言われている。

2 編曲の理論

編曲とは、前述したとおり、管弦楽曲などを吹奏楽編成用に編曲した曲 (トランスクリプション: transcription) と、独創性をもち編曲された曲 (アレンジメント: arrangement) の2種類に分類される。前者は、原曲の雰囲気やオーケストレーションを大切にしながら、編成に合わせた楽器の置き換えにあたる。それに対して後者は、新たな楽曲として捉えられるような作品に仕上がっていくものである。当然のことながら、前者、後者互いの性格を合わせもつ作品を創作することも可能であるが、このような場合は、後者 (アレンジメント: arrangement) と分類するのが相応しいであろう。

(1) 音の素材

まず、各楽器が演奏しうる音域を分類し、その音域によってどのような音色を発するのか理解しなければならない。そして、1つの音を何人の奏者で演奏するのかを決定する。吹奏楽においては、同じパートを複数で演奏することが多いため、メロディに対するハーモニーのバランスを計ることが大切になってくる。また、音域の近い楽器を複数用いて同じ高さの音を演奏する場合、音色のブレンド感や楽曲のもつ色彩感を損なうことがないよう配慮しなければならない。つまり、原曲がもつ雰囲気を崩さないよう編曲することが課題となるのである。

(2) 各楽器の特性

吹奏楽において使用される楽器には、フラット系の調性をもつ楽器が多いことに注意しなければならない。そして、各楽器の特徴となるスケールを活用し編曲することによって、難解なパッセージを克服して演奏できるようになるのである。また、クラリネットやサクソフォーンのように、変ロ長調の楽器と変ホ長調の楽器を組み合わせることによって、高音域から低音域まで演奏可能になる楽器群も忘れてはならない。しかし、どの音をもって次の楽器へ受け渡していくかという問題は、編曲する者によって違ってくる。そこで、各楽器の演奏者と綿密な打ち合わせをする必要性が生まれてくることになる。

3 威風堂々第1番作品39-1 (E.エルガー作曲)

「威風堂々」は、イギリスのE.エルガーが作曲した管弦楽用の軍隊行進曲集である。原題である「Pomp and Circumstance」は、W.シェイクスピア (William Shakespeare) が書いた戯曲「オセロ」 (Othello - The Moor of Venice -) の第3幕第3場にある台詞^{*1}から付けられており、1901年、ロンドン (Queen's Hall in London) において初演された。

E.エルガーが生前、作曲した5曲のうち、第1番と第2番は1901年、第3番は1905年、第4番は1907年、第5番は1930年にそれぞれ初演され出版された。そして、1996年、大英図書館で発見された主要主題を含む草稿と同図書館所蔵の手稿譜を元に、2005年から2年間かけてA.ペイン (Anthony Payne) が補筆完成し第6番の行

進曲が発表された。管弦楽の編成^{※2}は大編成で、オプションパートとしてオルガンを使うなど、作曲者自身が楽曲に対する壮大なイメージを膨らませていると考えられる。また、サクソルン属(saxhorn)のコルネット(cornet)を使用し、当時のイギリス音楽における「らしさ」を出そうとしているように受けとめられる。

1902年、E. エルガーは、エドワード7世(Edward VII: Albert Edward)より、「この楽曲の中間部に歌詞を付けてほしい。」と依頼され、「戴冠式頌歌(Coronation Ode)」を作曲した。終曲である「希望と栄光の国(Land of Hope and Glory)^{※3}」には、この楽曲の中間部のメロディを用いた。また、「希望と栄光の国」は、「イギリス第2の国歌」、「愛国歌」と称されるほど国民に愛されている曲となった。

※1: “The spirit-stirring drum, the ear-piercing fife, The royal banner, and all quality, Pride, pomp, and circumstance of glorious war!”

※2: Flute 2, Piccolo 2, Oboe 2, Clarinet 2, Bass-clarinet, Fagot 2, Contra-fagot, Horn 4, Trumpet 2, Cornet 2, Trombone 3, Bass-tuba, Timpani, Percussion (Snare-drum, Bass-drum, Cymbal, Sleigh-bells, Tambourine, Orchestra-bells), Harp 2, Strings-section

※3: “Land of Hope and Glory”

1: Dear Land of Hope, thy hope is crowned. God make thee mightier yet! On Sov'reign brows, beloved, renowned, Once more thy crown is set. Thine equal laws, by Freedom gained, Have ruled thee well and long; By Freedom gained, by Truth maintained, Thine Empire shall be strong.

2: Land of Hope and Glory, Mother of the Free, How shall we extol thee, Who are born of thee? Wider still and wider Shall thy bounds be set; God, who made thee mighty, Make thee mightier yet God, who made thee mighty, Make thee mightier yet.

3: Thy fame is ancient as the day As Ocean large and wide A pride that dares, and heeds not praise, A stern and silent pride Not that false joy that dreams content With what our sires have won; The blood a hero sire hath spent Still nerves a hero son.

4 吹奏楽編成への編曲

ここでは、管弦楽法^{※1}に基づくオーケストレーション(Orchestration)について考えながら、吹

奏楽編成に編曲することを考える。管弦楽法の中には、楽器法や編曲法をはじめ、作曲者自身が書いたスコア(Score)を分析しアナリーゼすることが含まれる。そして、作曲者が作品に表した意図を大切にしながら、吹奏楽編成に編曲されなければならない。

筆者が考える、吹奏楽編成^{※2}の編曲を、威風堂々第1番作品39-1(E. エルガー作曲)を用いて行うと次のようになる。これは、日本の学校教育現場において課外活動として行われている吹奏楽編成をモデルにしたものである。

※1: 管弦楽法

(1) 基礎的技法: 楽典, ソルフエージュ, 和声学, 対位法, 楽式・様式, スコアリーディングなど

(2) 楽器法: 楽器の知識(音域・音色・奏法)など

(3) 編曲法: 楽器編成, 楽器の組み合わせなど

※2: Piccolo 1(2), Flute 2, Oboe 1(2), Fagot 1

(2), E♭ Clarinet, Clarinet 3, Alto-clarinet, Bass-clarinet, Alto-saxophone 2, Tenor-saxophone, Baritone-saxophone, Trumpet 2, Cornet 2, Horn 4, Trombone 2, Bass-trombone, Euphonium, Tuba, Contra-bass, Timpani, Percussion (Snare-drum, Bass-drum, Cymbal, Sleigh-bells, Tambourine, Orchestra-bells)

Pomp and Circumstance Marches No.1 op.39-1
com. Edward Elgar (1857-1934)
arr. Takashi Kinoshita

Allegro con molto fuoco

♩ = 1 measure

Piccolo 1-2

Flute 1-2

Oboe 1-2

Bassoon 1-2

Clarinet in Bb

Clarinet in Bb 1

Clarinet in Bb 2

Clarinet in Bb 3

Alto Clarinet

Bass Clarinet

Alto Sax 1-2

Tenor Sax

Baritone Sax

Trumpet in Bb 1-2

Cornet in Bb 1-2

Horn in F 1-2

Horn in F 3-4

Trombone 1-2

Trombone 3

Euphonium

Tuba

Contrabass

Timp

Percussion 1

Percussion 2

Percussion 3

Percussion 4

♩ = 1 measure

Piccolo 1-2

Flute 1-2

Oboe 1-2

Bassoon 1-2

Clarinet in Bb

Clarinet in Bb 1

Clarinet in Bb 2

Clarinet in Bb 3

Alto Clarinet

Bass Clarinet

Alto Sax 1-2

Tenor Sax

Baritone Sax

Trumpet in Bb 1-2

Cornet in Bb 1-2

Horn in F 1-2

Horn in F 3-4

Trombone 1-2

Trombone 3

Euphonium

Tuba

Contrabass

Timp

Perc. 1

Perc. 2

Perc. 3

Perc. 4

Fl.
Ob.
Ba.
Cl.
Bb.Cl.
Bb.Cl.
A.Sax.
T.Sax.
B.Sax.
Bb.Tb.
Euph.
Tuba
Perc. 1
Perc. 2
Perc. 3
Perc. 4

Fl.
Ob.
Ba.
Cl.
Bb.Cl.
Bb.Cl.
A.Sax.
T.Sax.
B.Sax.
Bb.Tb.
Euph.
Tuba
Perc. 1
Perc. 2
Perc. 3
Perc. 4

Fl.
 Fl.
 Ob.
 Ba.
 P.C.
 B.C.1
 B.C.2
 B.C.3
 A.C.
 R.C.
 A.Sa.
 T.Sa.
 B.Sa.
 B.Tr.
 B.Con.
 Hn.1-2
 Hn.3-4
 Tr.1-2
 Tr.3
 Euph.
 Tuba
 Ch.
 Timp.
 Perc. 1
 Perc. 2
 Perc. 3
 Perc. 4

Fl.
 Fl.
 Ob.
 Ba.
 P.C.
 B.C.1
 B.C.2
 B.C.3
 A.C.
 R.C.
 A.Sa.
 T.Sa.
 B.Sa.
 B.Tr.
 B.Con.
 Hn.1-2
 Hn.3-4
 Tr.1-2
 Tr.3
 Euph.
 Tuba
 Ch.
 Timp.
 Perc. 1
 Perc. 2
 Perc. 3
 Perc. 4

①

Fl.

Oboe

Bs.

Cl.

B.C1

B.C2

B.C3

A.C.

B.C.

A.Sa.

T.Sa.

B.Sa.

B.Tr.

B.Ctr.

Hr.1-3

Hr.2-4

Tb.1-2

Tb.3

Euph.

Tuba

Ch.

Temp.

Perc.1

Perc.2

Perc.3

Perc.4

- 7 -

Fl.

Oboe

Bs.

Cl.

B.C1

B.C2

B.C3

A.C.

B.C.

A.Sa.

T.Sa.

B.Sa.

B.Tr.

B.Ctr.

Hr.1-3

Hr.2-4

Tb.1-2

Tb.3

Euph.

Tuba

Ch.

Temp.

Perc.1

Perc.2

Perc.3

Perc.4

- 8 -

①

Fl.
Cl.
Ba.
O.
B.
B.
B.
B.
B.
B.
B.
B.

②

Fl.
Cl.
Ba.
O.
B.
B.
B.
B.
B.
B.
B.
B.

Poco allargando

Flc.

F.

Ob.

Bn.

D.C.

D.C.1

D.C.2

D.C.3

A.C.

S.C.

A.Sk.

T.Sk.

R.Sk.

P.Tc.

B.Ccl.

Hr.1-3

Hr.2-4

Tb.1-2

Tb.3

Euph.

Tuba

Cb.

Trpt.

Perc. 1

Perc. 2

Perc. 3

Perc. 4

- 11 -

[illegible]

①

Fl. 1

Fl. 2

Ob.

Bn.

Cl. 1

Cl. 2

Cl. 3

Al. 1

B. 1

B. 2

T. 1

T. 2

B. 1

B. 2

B. 3

B. 4

B. 5

B. 6

B. 7

B. 8

B. 9

B. 10

B. 11

B. 12

B. 13

B. 14

B. 15

B. 16

B. 17

B. 18

B. 19

B. 20

B. 21

B. 22

B. 23

B. 24

B. 25

B. 26

B. 27

B. 28

B. 29

B. 30

B. 31

B. 32

B. 33

B. 34

B. 35

B. 36

B. 37

B. 38

B. 39

B. 40

B. 41

B. 42

B. 43

B. 44

B. 45

B. 46

B. 47

B. 48

B. 49

B. 50

B. 51

B. 52

B. 53

B. 54

B. 55

B. 56

B. 57

B. 58

B. 59

B. 60

B. 61

B. 62

B. 63

B. 64

B. 65

B. 66

B. 67

B. 68

B. 69

B. 70

B. 71

B. 72

B. 73

B. 74

B. 75

B. 76

B. 77

B. 78

B. 79

B. 80

B. 81

B. 82

B. 83

B. 84

B. 85

B. 86

B. 87

B. 88

B. 89

B. 90

B. 91

B. 92

B. 93

B. 94

B. 95

B. 96

B. 97

B. 98

B. 99

B. 100

B. 101

B. 102

B. 103

B. 104

B. 105

B. 106

B. 107

B. 108

B. 109

B. 110

B. 111

B. 112

B. 113

B. 114

B. 115

B. 116

B. 117

B. 118

B. 119

B. 120

B. 121

B. 122

B. 123

B. 124

B. 125

B. 126

B. 127

B. 128

B. 129

B. 130

B. 131

B. 132

B. 133

B. 134

B. 135

B. 136

B. 137

B. 138

B. 139

B. 140

B. 141

B. 142

B. 143

B. 144

B. 145

B. 146

B. 147

B. 148

B. 149

B. 150

B. 151

B. 152

B. 153

B. 154

B. 155

B. 156

B. 157

B. 158

B. 159

B. 160

B. 161

B. 162

B. 163

B. 164

B. 165

B. 166

B. 167

B. 168

B. 169

B. 170

B. 171

B. 172

B. 173

B. 174

B. 175

B. 176

B. 177

B. 178

B. 179

B. 180

B. 181

B. 182

B. 183

B. 184

B. 185

B. 186

B. 187

B. 188

B. 189

B. 190

B. 191

B. 192

B. 193

B. 194

B. 195

B. 196

B. 197

B. 198

B. 199

B. 200

B. 201

B. 202

B. 203

B. 204

B. 205

B. 206

B. 207

B. 208

B. 209

B. 210

B. 211

B. 212

B. 213

B. 214

B. 215

B. 216

B. 217

B. 218

B. 219

B. 220

B. 221

B. 222

B. 223

B. 224

B. 225

B. 226

B. 227

B. 228

B. 229

B. 230

B. 231

B. 232

B. 233

B. 234

B. 235

B. 236

B. 237

B. 238

B. 239

B. 240

B. 241

B. 242

B. 243

B. 244

B. 245

B. 246

B. 247

B. 248

B. 249

B. 250

B. 251

B. 252

B. 253

B. 254

B. 255

B. 256

B. 257

B. 258

B. 259

B. 260

B. 261

B. 262

B. 263

B. 264

B. 265

B. 266

B. 267

B. 268

B. 269

B. 270

B. 271

B. 272

B. 273

B. 274

B. 275

B. 276

B. 277

B. 278

B. 279

B. 280

B. 281

B. 282

B. 283

B. 284

B. 285

B. 286

B. 287

B. 288

B. 289

B. 290

B. 291

B. 292

B. 293

B. 294

B. 295

B. 296

B. 297

B. 298

B. 299

B. 300

B. 301

B. 302

B. 303

B. 304

B. 305

B. 306

B. 307

B. 308

B. 309

B. 310

B. 311

B. 312

B. 313

B. 314

B. 315

B. 316

B. 317

B. 318

B. 319

B. 320

B. 321

B. 322

B. 323

B. 324

B. 325

B. 326

B. 327

B. 328

B. 329

B. 330

B. 331

B. 332

B. 333

B. 334

B. 335

B. 336

B. 337

B. 338

B. 339

B. 340

B. 341

B. 342

B. 343

B. 344

B. 345

B. 346

B. 347

B. 348

B. 349

B. 350

B. 351

B. 352

B. 353

B. 354

B. 355

B. 356

B. 357

B. 358

B. 359

B. 360

B. 361

B. 362

B. 363

B. 364

B. 365

B. 366

B. 367

B. 368

B. 369

B. 370

B

Musical score for "The Rose Tree" featuring a vocal solo and a vocal quartet. The score is written for Soprano, Alto, Tenor 1, and Tenor 2. It includes a key signature of one flat (B-flat) and a 4/4 time signature. The music is in English and includes lyrics. The score is divided into two systems, with the first system containing measures 1-16 and the second system containing measures 17-32. The vocal solo part is marked "Solo" and the vocal quartet part is marked "Vocal Quartet".

[illegible][illegible]

The image shows a page of a musical score, page 19, for a symphony orchestra. The score is written for various instruments including Piccolo, Flute, Oboe, Bassoon, Clarinet, Saxophone, Trumpet, Trombone, Euphonium, Tuba, Snare Drum, Cymbal, Triangle, and Percussion. The music is in 2/4 time and features complex rhythmic patterns and dynamics. The page is numbered - 19 - at the bottom right.

Ⅲ 考察および課題

本稿における吹奏楽編成の編曲では、原曲の調性（ニ長調―ト長調―ニ長調）や音楽の流れを大切にしながらも、その編成がもつ美しい響きや、演奏者の演奏技術を考慮し、「変ホ長調―変イ長調―変ホ長調」という調性で編曲した。これまでの編曲ならば、「ハ長調―ヘ長調―ハ長調」という調性で編曲されていたであろう。しかし、楽曲の冒頭に、最も遠い関係調である変ホ長調（本稿の編曲では変ヘ長調）の劇的なファンファーレがあり、異名同音的な転調をもって第1マーチへと入ることから、吹奏楽編成で明るい響きをする調（変ヘ長調）を選択した。演奏者が演奏する音域は、全体的に短2度上昇することになるが、低音域を受けもつバスクラリネット、バリトンサクソフーン、チューバなどの演奏音域を考えると、低音域すぎずサウンドに安定感が出てくるように感じられる。

また、原曲では、トリオ（第3マーチ）部分において、ホルンと第1ヴァイオリンがメロディを演奏するようオーケストレーションされている。吹奏楽編成用に編曲するならば、柔らかい音色をもつクラリネットの中音域もしくは、安定した音色のアルトサクソフーンと原曲でオーケストレーションされているホルンで編曲することが妥当であろう。しかし、本稿の編曲では、木管楽器と金管楽器の音色をブレンドするだけでなく、トランペット奏者が、オプションパートとしてフリューゲルホルンを持ち替えることによってホルンの高音域を補うよう編曲している。そして、後半部分には、4分音符で演奏される伴奏形からメロディが明らかに浮き上がって聞こえるよう、テナーサクソフーンとユーフォニウムで1オクターブ下のメロディを配置した。

低音域を演奏する楽器については、特に演奏者が演奏可能な音域に配慮を必要とする。まず、ファゴットにおいては、管弦楽における木管セクションのベースラインという考え方ではなく、中音域のメロディから低音域のベースまでをこなす楽器として扱っている。次に、バスクラリネットにおいては、Low E♭（実音：変二）まで演奏可能な楽器とLow C（実音：変ロ）まで演奏可能な2種類の楽器がある。そこで、どちらの楽器を使用しても吹奏楽の演奏効果を損なうことがないよう配

慮し、音域によっては小さな音符（符頭）を用いて表記した。また、バリトンサクソフーンにおいては、調性からみても演奏可能な音域の問題などとはなくなっていると考えられる。最後に、チューバにおいては、管弦楽におけるチューバ、チェロ、コントラバスなどの役目を果たさなければならないと考えた。このことから、高度な演奏技術が求められることになるが、使用する音域は広くなりすぎず、大きな跳躍進行なども避けるよう配慮した。

約50年の間に、各楽器の製作技術や性能、演奏者が持つ演奏技術は飛躍的に伸びている。そして、日本国内における吹奏楽の発展にもめざましいものがある。その時代に合った音楽表現というものを望まれるところであろうが、その時代の楽器編成に合った編曲も供給しなければならない。「演奏してみたいけど楽譜がない。」というような現状を考えると、各現場で指導する教員や指導者が楽譜に手を加えることによって、演奏者が安心して演奏でき音楽に対する満足感を得られるのではないかと考えられる。編曲することを「難しいこと」と捉え、既成の楽譜を探すのではなく、「目の前にいる相手が演奏するならば」と考え、「手を加える」という感覚をもって編曲すれば、演奏者たちは、より素晴らしい編曲に出あえると思われる。これからは、「音楽」に対する苦手意識を払拭するために、子どもたちの器楽分野にも視野を広げ、編曲を手がけたいと考えている。

参考文献

1. 管弦楽スコア Edward Elgar “Pomp and Circumstance March No.1”（音楽之友社）
2. ウォルター・ピストン著（戸田邦雄翻訳）管弦楽法 OCHESTRATION by Walter Piston（音楽之友社）
3. 伊福部昭著 完本 管弦楽法（音楽之友社）